



江田島市で活躍する人やお店をリレー形式で紹介！

広報ふたに多摩産企画

ETAJIMA GoON!

TAKE FREE
VOL.02

思いを
知れば、
もっと
好きに
なる。

総心 SPECIAL
の MAGAZINE



GoON!



2023年3月発行

【発行】広島県 江田島市（企画部企画振興課）
【企画・編集】江田島市地域おこし協力隊 牛尾 奈緒子
【SPECIAL THANKS】yucali





CONTENTS

01 目次

02 『ETAJIMA GoON!』

03 伊東町・三吉
LICHOU

海を見ながら特別な「ご褒美時間」を。

05 江田島町・蟹部

よってみん菜 江田島

『みんなの笑顔』が最大の収入なんよね。

07 江田島町・蟹部

食処しんべい

帰り際「楽しかった」の一言が嬉しい。

09 大井町・大原

Leciel

島で「美」の総合専門店を目指したい。

11 大井町・大原

かぞく家

夢は「みんなのおばあちゃん」なんです。

13 江田島町・切串

AReey

誰でも楽しめる『美活』を提供したい。

15 Meet ETAJIMA

エタジマで会った人たち。

21 熊奥町・中町

整体屋さん TORCH
ちづちゃんのグルテンフリー
おやつ屋さん

人生の後半は、夫婦と一緒に『好きなこと』を。

23 熊奥町・中町

バスケットボールクラブ CISE

次の世代へ『感謝』を伝え続けられる場所に。

25 大井町・津美町

チーム「おいでよ江田島」

みんなの『未来の種』になれば嬉しい。

27 大井町

株式会社太陽

一緒に成長していきたい、ただそれだけ。

29 熊奥町・中町

瀬戸内いとなみ舎

オリーブ丸ごと体験を楽しんでほしい。

31 ゴーオン約

よりみちグルメ

33 あとがき

34 GoONマップ



素敵な人たちが紹介する人たちは、やっぱり素敵だった。

つなが・つながる、 江田島市の ステキビト

ETAJIMA GoON
2021年4月スタート

江田島市で活躍する人やお店を
リレー形式で毎月紹介。

掲載された人が次の取材先を紹介する
つなぐ・つながる。をテーマにした連載企画です。

気になるあの人、好きなお店…

実はみんなつながっているかも？

話してみるとわかった、それぞれの思いを、
どんどんつなげて、広がっていきますように。





も出てきたという葵さんは、その後縁でつて医療事務職に転職。そこから3年間、病院で働くことになった。「病院で働くことは、とても勉強になりました。健康のこと、薬のこと、人との接し方等等です。対応させていただく方の年代もさまざま、初めての経験ばかりでした」。

しかし病院は、美容室みたいに人が癒しを求めに来たり、明るく喋って元気に過ごす場所ではない——葵さんの中で再び美容の仕事への思いが大きくなっていった。「仕事にやりがいを感じていたので、改めて自分ばかりに喜んでいたのかもしれない、人が癒しを求めている美容のお仕事をしたんだ」と思いだした。

さまざまな職種を経てわかった、自分の「本当にしたいこと」。ネイルをするのが一番好きだったという葵さんは、ネイルスクールに通い、一から勉強を始めた。「当時私は28歳。始めるなら遅くない」と、腰を括って仕事を諦めず、それから、ネイルの勉強をしながら生



写真1：自身のネイルも店舗に仕上げている葵さん。納期で早やかなデザインから、個性的なデザインまで、幅広く対応します。

写真2：三高堤目の前にあるサロンは、落ち着いた雰囲気で見えたらいい。後で反響が強い予約を受けることができます。

活のために働いて、毎日必死に頑張りましたね」。

みんなの「ご褒美時間」を提供するために

資格も留得し、念願だったネイルリストとしてサロンで働くことになった葵さん。「経験が浅かったので、就業後はひたすら練習で、職場だったサロンの近くに引越して、毎日家と職場との行き来だけという感じで生活を送っていた。それなら、忙しくなければいい。人々の生活が楽しくなれば、江田島が良い場所だったんだという気持ちに気づいたんです。私は江田島が好きだし、特に島から出たいという気持ちには無かったタイプなので、初めて島から出て一人暮らししてみても、より島の良さを知ったんだと思います」。

葵さんは、仕事を通って改めて島で過ごす時間の大切さを感じた。「知らないうちに、島では新しい挑戦をする方がいたり、移住者が増えていたり、皆さんに刺激を受け、私もいつかは島でお店を持ちたいと思うようになっていました」。

そんな時、ふとインターネットで島の物件情報を見ると、三高にある物件と出会った。「物件を見た時に、なぜか



LICHOU リッシュ
江田島市沖原町三吉 2775-1-3F
営業時間：9:00～18:00
定休日：不定休（時間外も相談可）
予約：Instagram DM または LINE から



ETAJIMA GoON! エタジマゴーオン

Vol.13

沖美町・三吉

LICHOU リッシュ



海を見ながら 特別な「ご褒美時間」を

この春オープンしたばかりのネイルサロン「LICHOU（リッシュ）」。

さまざまな職種を経て、本当に自分のしたいことを見つけたサロンのオーナーに、お店をオープンするに至るまでのお話や仕事への思いをインタビューしました。

さまざまな職種を経て ネイルリストへの挑戦

三高堤目の前にある小さなネイルサロン。オーナーの沖原葵さんは、生まれ育った地元、三高地区に念願だった自分のお店をオープンさせた。葵さんは、沖美町三吉出身、大柵高校の卒業生だ。卒業後は大学へ進学し、江田島市内にある製造業を営む会社へ就職した。

「バイトをしていた会社社員として働かないか」と声を掛けてくれた。私はその職場も仕事も好きだったので、そのまま就職することになったんです。しかし、働き始めてからしばらくして会社が突然たまることになり、次の就職先を探すことになった。その時、高校卒業後の進路で悩んでいたという気持ちで思い出した。元々大学へ行くか、美容の専門学校へ行くかで悩んでいたんです。その時の気持ちからと忘れなかつたんですね。それなら偶然美容室がアルバイトでオープンしたばかりのこのタイミングで募集していて、もうここがない！と思ってそこで働き始めました。働いていた美容（へ道、葵さんは、接客と美容に慣れてきたことを喜んでいました。もちろん仕事は楽しかったが、年齢が進むともにもちゃんと就職しなければ、という思い

電話しなきゃと思うとすぐに電話したんです。一港も海も目の前、慣れ親しんだ地元であるこの場所が、次なる葵さんの職場になった。

「海が目の前です。港からでもすぐに来れば、ちょっとした旅気分です。来てもらえば、気分が上がると思います。施術後は、海に行ったり、ご飯を食べたり。島が楽しんでもらうきっかけのお店になれれば嬉しいんです。今後は島に住れる方だけでなく、江田島市にきてくれる方々、お友達に誘ってほしい。意気込みです。オープンして1か月、人が入るにつれて、この魅力がある島で、願望にお客さんが増えていく。島に住む方々や職場が江田島市の方、前の職場からのお客さんを中心に葵さんの施術は好評だ。

人とのコミュニケーションの取り方、気合い、一つひとつ丁寧に仕事すること、これまでですの仕事の経験が勉強になった。これまでものご縁に感謝しながら、たかさんの人への思いを共有していきたいと話した葵さんは、最後にこんな思いを話してくれた。「ここでお店をオープンして思うようになったんですが、島だから1年級の方も多いんですよ。声掛けると、もう私は若くないから大丈夫と、言う方もいます。でも、ネイルをするだけで価値がある。楽しさとか、気分が上がることも経験していただけたらいい！実際に、私自身も年配の方でネイルをされているのを見て、私も素敵だと思ってしまう。年だからと遠慮せず、みなさんに価値になってほしい。年代問わず、爪先から綺麗になるサポートができればいいな

と思っています」。

島に住む方には癒しと感動を、市外の方にはよつとした旅気分、で楽しい時間を届けたいという思いで、葵さんは、とても物陰が柔らかな素敵な人だ。

ネイルを通して、みんなのご褒美の時間を提供したいその言葉通り、今日、誰かが海を泳いでいる「ご褒美時間」を楽しんでいることだろう。



レジでお客さんと話している古田さん。タコや魚など、特に海産物に關しては仕入れの要望が多いそう。また、敷地内にあるスペースをめでか販売業者に貸し、週末のイベントなどでめでか販売を行うことも。「何をしているんだろう？」とおもわず驚てみたくなるお店だ。



今でも十分さまざまな商品が置いてあるってつみん業。しかし、今はスーパーの機能も持つお店にしたいと古田さんは意気込む。「野菜は地元元々が観光客の目、朝早いに来る人が多いからすぐに売り切れる。だから、地元の仕事だけじゃなく、市場からの野菜も仕入れられたら、特に地元元々は時間を気にせず店に寄れるしね。あとは駄菓子も増やして、子どもたちが気軽に寄れる場所にするのが目標かな」

自分も働く人も、お店を訪れる人もみんなが楽しめる場所。お店のアイデアや行動がきっかけで、少しでもお店に

『島を盛り上げたい』
という原動力

楽しいですね。近所の人だと、毎日来てくれる人います。必要もないが手に入らないなら、要望にのって取り入れてほしい、簡単に「できない」とは言わないね」

オーブンは約6年半、今ではパティエに出る機会も増え、地元お客さんだけでなく、広島市、下村からお客さんが来ることも増える。だからお客古田さんは自分の足で仕入れ場所を回り、お客さんが喜ぶ商品で仕入れるように、常に動いているという。このお店でできることはしてきたい。今もやっているけど、キプチカーを置いていたり、イベントをしたり、他の市町の特産品とか、島には置いて無いものを仕入れてみた。基本的に、お客さんに楽しんでほしいという思いで動いている。店に来る人みんな楽しめている。うちは店員も立っている部分が多いから、最大の収入は「みんなの笑顔。働けることも大入だ」と。笑顔が重要よ（笑）」

島から大きな市になつて、バババは面白くもなつて、白くないやん！とどうせな色々々な人と繋
がって、みんなと一緒に江田島を盛り
上げた。内側から盛り上がりたらないと外
には発信できなからぬ。だから、自分は
江田島市の中心でPRできることを、何
でもする！島の人でもしゃない人も、
みんながなれればいいよ！江田島市を
好きになれればいいよね！

働いていた遠送会の社長に言われた。
「君の彫りだめだと言つてやるな」という言葉。まずは黙殺してみて、縁がぶつかれば、あれこそ考えてゐたからにければ、人に聞いてみる。古田さんの働く上でのモットーは「行動してやらないは良い」と。それだけ行動にうつっているなら、これからも人と人との間に接して、色んなことがを吸収したいと思つたい。年が若からうが、上だらうが、勝ててもたえらるゝものは教へてもう。そして、自分自身も、この店もつと成長していきなさい。こうした考えが、少なからず江田島への「内側」からの盛り上がりにつながっている。

この日、話を聞く中で、何處か「江田島市」という言葉が聞きただかう。その島と対する熱い思いに圧倒されてしまった。島を盛り上げるだけという原動力で、みんなの笑顔のために動いてる古田さん。これよりも、たぐさくの人と繋がり、手を取れ合いながら、江田島市をますます盛り上げていくことだろう。



目印は、道沿にある大きな
ジュをよく見
がお客様を
す。食品だけ
の特産品であ
も販売されて
期的にイベン
ンやクレープ
んが喜ぶキ
していますの
寄ってみな

最新情報は Instagram 7

よってみん菜 江田島
江田島市江田町新部 1-38-3
営業時間：10:00～17:30(火曜日は午前中のみ)
定休日：不定休(道沿いに輪が出ていれば営業中)
電話：0823-69-9155 / 駐車場：あり

毎号リレー形式で江田島市内で活躍する人やお店を紹介！

ETAJIMA

GoON!

エタジマゴーオン



『みんなの笑顔』が
最大の収入なんよね。

江田島町・鷺部

よってみんな菜 江田島

Vol.14

江田島町警部に「よってみん茶 江田島ライオン号」の消し草のオブジェ、盛り上げたの飾品を引くことにおまけには、「島を色とりどり」という一心で動き続けるオナーがいきました。

「オナーは、黄った直ぐ置ただけよ。全と気さくに話かけてくれれば店のオナー！古く受け継いだ元は運送会社で働ながら、父親受けたのはこの業としてた。ある時、ついに野菜を廃棄する所を知り合いが、野菜作って売る場所を作ろうと思ったのだったから自分売る場所を作ろうと思ったのをお店を開きかけたんだという。せっかくの野菜は特々に元気が無かったんだ。作った野菜を廃棄するのはもったいないし、何分間にできることもないかと思いついた。ミニング良く事業者に貸して、に物件が戻ってきたので、野菜を売る場所としてお店を開く」
と「警部では育った古田さんには、慣れ親しまった土地に、2019年11月、よってみ江田島をオープンさせた。

店内には地産で採れた野菜を中心に、牡蠣、海産物、猪や猪貨まで、ありとあらゆる物が置いてある。「雑貨とかは、基本的にお店で買えないかなあかと持っている人が多い、あとインスタグラムで繋がった業者さんの商品も多いといわね。交通の手段が無くて島から出れないものでしょう。そういう人にも、買い物出来るんでほしいのと、積極的に商品を仕入れて、取材したい。お客さん一人、また一人と訪れて欲しい。いっしょに入れて、魚はいくらでも？」など、古田さんに声を掛けながら異動した



しんぺいに行くまでの海沿いの道では、選がければ素敵なサンセットも見える。お店自慢の手ごしらえで始めるメニューは後継が満足！お昼にも余裕もたてさんあるの、食べて飲んで楽しんで、空間を楽しんでいます！

しんぺいは、忙しすぎるとお客さんとのコミュニケーションが取りづらくなるという理由で、WEBやSNSでの宣伝などは積極的には行っていない

「雰囲気が良い」が自慢のお店にしたい

しんぺいは、手ごしらえでさまざまな料理が楽しめるのが魅力の一つ。オープンしてから丸3年、最初はお客さんが無かったと話す平川さんだが、お客さんの反応も上々だ。「常に悩まながらではあります、お陰様で3周年を迎えることができました。誰でも気軽に、頼みやすく、料理も雰囲気も楽しんでもらえる。このコンセプトは開店当初から変わってない、お客さんには気楽に食事と空間を楽しんでもらえたいと思います」



私もその楽しい雰囲気を楽しめられ、何度か訪れたことがあるしんぺい。みなさん、ぜひ、その楽しかった、味わいに、一度しんぺいを訪れてみてほしい。

「今、今の時代だと珍しいのかもしれないが、理由を聞くと、何よりお店での時間を楽しんでもらいたい、今来てくれるお客さんでも大切にしていきたいという。マスターなどでは心遣いを感じた。料理が一番というお店よりは、雰囲気が一番のお店を目指している。僕も出れるときはお客さんのテーブルへ出ていきます。こう見えて、元々はそんな社交的なタイプではないのですが、今はしんぺいのマスターなので、お店のために頑張ります(笑)」。見目上は反して恥みずかしうに取材を受けてくれた平川さん。取材中のふとした一言が、まさにその人柄とお店の雰囲気を表しているのだ、と思わずメモをしてしまった。「料理をおいしいと言われたいのはもちろん嬉しいんだけど、帰り際に「楽しかったよ」ってお客さんに声を掛けてもらうと、すごく嬉しいんです。お店での時間を楽しくもらえたらいいですね、また頑張ろうという気持ちになっています」

Vol.15

食処 しんぺい

江田島町、鷺部



ETAJIMA

帰り際『楽しかった』の一言が嬉しい。

GoON!
エタジマゴーオン

江田島町鷺部、第一高等学校校方面へ向かう海沿いの道にある「食処 しんぺい」。つい先日、開店してから3周年を迎えたばかりのこのお店には、なんとも不思議な縁でお店を開いた、マスターがいました。

癒しの「居酒屋ごっこ」が転機に

江田島町鷺部にある「食処 しんぺい」の店主・平川信さんは、呉市戸町出身の32歳。2019年、長年勤めていた会社を退職し、心機一転、飲食業という道へ進んだ。

「小学生の頃から、得意料理は卵焼きというくらい、料理をすることは好きだったんです。でも、将来の夢が料理人というわけではなく、学生時代はずっと野球に夢中でした」と話す平川さんは、高校卒業後、御日立ビルシステムに就職。11年間、ビルシステム事業に携わっていた。楽しかった中で、いつの間にか終業後や休日に同僚たちと楽しむ「居酒屋ごっこ」が癒しになっていたという。平川さんは料理を振る舞って楽しんできたという。平川さんは「やっぱり僕は料理が好きなんだと感じたんで、思い返せば、小学生の時の職場体験ではホテルの調理場を選択し、小さい頃から料理の手伝いを楽しんでいた。釣りに行ったり、捌き方を習ったり。そうした小さい経験が積み重なって、自然と料理の道へと気持ちがあがっていったのだ。そして、この何気なく始めた「居酒屋ごっこ」が、平川さんの転機となった。

「実は、元々こころは「千好」という居酒屋があったんです。小さい頃からしょっちゅう来ていて、まさに今取材を受けているこの席によく座っていました(笑)。マスターにも仲良くさせてもらっていましたが、身体的に続けられないというところでお店を畳まれて、そうしたごっこから僕が店舗の権利を引き継いだんです。その後、しばらく空き店舗の状態が続いていたことから、「もし僕がお店を開くならここから始めたいな」と思い始めて。思い出のお店でもありましたし、お店を開きたいという気持ちが生えただけです。



食処 しんぺい
江田島市江田島町鷺部2-14-9
営業時間：17:00～22:00(LO 21:30)
定休日：日・月
電話：080-4952-6878(予約) / 駐車場：あり



オリジナルグッズも販売中！
常連のお客様からの声に応えて、しんぺいオリジナルグッズも販売中。人気のしんぺいオリジナルグッズはカラーバリエーションも多いのでぜひ。



他人だけれど、家族のように扱ってくれ
る人たちが出てくる中で、愛子さんは「私
もそういう人になりたい」と思ふやうに
なつた。「実は、私の夢は曹かん「みんな
のおおあんなに暮らすことだ。自分の
家族のみならずに誰かを受け入れること
がたかたかたんなる事。そこで思つたの
のが下宿屋と民泊とか、誰かを受け入
れる場所を作ること。そこがからずく家
が生れる場所とした」

周り、人々にたくさん助けてもらつた
分、今度は自分が返す番。そこで笑つて笑
う愛子さんは、とても良い表情をしてい
た。

「ただいま」と言つて
帰つて来れる場所へ

家に来たという。などと云われたらとても嬉しくないと話す子もいる。今、家族の「国」として一緒に暮らす偏食がなくなったが、愛子君は日本の作ってご飯を美味いといふなら自分で食べてくれたら、思えば、すっごくしゃんやんとの心の中で大喜びをするなど、みんなの「母ちゃん」として日々活動を楽しんでいるという。

最後に、かぞく家の母ちゃんとして、今後の目標を聞いてみると、とても壮ちかつ愛子さんらしい答えが返ってきた。「私は学生時代の経験もあるし、東南アジアから来た人々へのサポート、東南アジアから来た人々からに働きに来た人たちが、かぞく家でご飯を食べ、こころを第2の家みじきに取ることを、こころを第2の家みじきに



Vol.17

大柿町・大原
かぞく家

夢は“みんなのおばあちゃん”
なんです。

私がもらった分、返す番

大楠町大原にあるかそく家は、フウどの館長を務める為政伸彦さんと、妻の愛子さんの夫婦で運営する下宿屋。他にも、民泊やイベント出店など積極的に活動している。今回は、そんなかそく家で『母ちゃん』として運営を支える愛子さんに活動への思いや今後の展望について話をしてもらいました。

を始めたときには、それまでも『人を受け入れる場所』を与えた2人の体験があるという。

大元は空きのすぐ近くにある大きな2人階建ての家。木々は空々とした場所を、人が交わり、場所「かつて家」として再したのが、為政夫婦だ。「何ぞいそいそ」と、優しい笑顔で出迎えてくれたのは、かぞえ家の「司ちゃん」愛子さん。愛子さんは、大学時代に国際関係学でボランティアに入り、東南アジアにさまざまな国でのボランティア活動を通して感じた「豊かさとは何か」という疑問を常に考えながら、仲登さんと一緒に下宿暮らしを始めた。愛子さんが話を聞くと、「どうしてか宿屋をやりたいかった、というわけではなんでもずとのことだった。それでも『人を受け入れる場所』を始めたときには、それまでも『人を受け入れる場所』を与えた2人の体験があるという。

時。私は都市部ではなく、田舎の町にポラントアに行ったのです。毎度どこかの家族と3回以上行ったの共にごく知らずの外国人を留まるとき、温かく迎入れてくれる。帰る頃は「もう君は家族だよ」と言われて、とても感動し、23日は江田島市に移住してからのもう一度。最初は沖門市に住んでいたのですが、イメージで子どもが生まれて、なおかつ移住者を知り合いもないし、少し孤立しているような感じがしたんです。そんな時、近所の方々がよく来て見知らずの移住者を助けてくれた。子どもを育ててくれたり、その島の歴史や文化の生活でアットホームな距離感の「近所さん」に



かぞく家
江田島市大津町大原 1110-1
おおばかぞくや食堂や宿泊の詳細、イベント出
店など、お問い合わせはホームページから

「おぼろかぞくや食堂」オープンします！
 為政夫婦が新たに営む事業『おぼろかぞくや食堂』が9月末にオープン。みんなが集まるこの食堂で、多世代多文化交流を楽しみましょう！おとも 100 円～/おとな 300 円～
 ※食堂に隣接してのご結婚お祝い会等はホームページから

誰でも楽しめる
『美活』を提供したい。



ETAJIMA
GoON!
エタジマゴーオン

Vol.18

江田島町・切串

アレー
Areey

赤星さんは、こまめに美容系の展示会へ行ったりと、情報収集を怠らないで、最新トレンドや最新の美容品、美容器具を常にチェックし、最新の美容技術を取り入れています。
ラッシュコフ・パリジアンコフ・シヨコフとも
に上り500円〜4000円かかる。

年齢性別関係ない。
『整える』の大切さを伝えるために



赤星さんは、美容業界に入ってから20年。大学卒業後、新卒で就職したものの働き方が合わず退職。その後「手に職をつける」という周りの助言から一念発起し、ネイリストへ転身したという経歴の持ち主で、「当時ネイリストとして働いていたサロンに、まづげの施術が導入されて、興味を持ったのがきっかけで、勉強し始めてそこからはいデザイナーとして活動するようになりまし」その後、赤星さんはスキルが併用されたサロンにも講師として勤め、職種を広げるためにエステの資格も取得。六本木や麻布十番、恵比寿などといったさまざまな場所でもサロンスタッフとしての経験を積んできた。「移住前まで勤めていたサロンがあった池袋は、日本一まづげサロンが多い街なんです。そんな激戦区でサロンの立ち上げから携わり、技術と接客を磨いてきたという自信もある。だから、移住したは良いものの、せつかく長年頑張ってきた仕事を諦めるのはもったいないなとも感じていた」



そんな時、Kirkushi Coastal Villageがテナントを募集しているという話を友人づてに耳にした。「島でサロンを開くなら、東京発信のトレンドや最新技術の島の人たちに還元できる。そんなお店にしたいな」とずっと思っていて、サロンを開く前年から、東京や福岡などで開催される日本一「一番大い美容展示会」にも足を運んでいました。技術が衰えないように、時々広島市内にあるまづげサロンを手伝っていたという、「島の人たちを美しくしたい」という思いが大きくなっていったので、私にとっては良いタイミングだった」

から、知合いや地域の人だけではなく、噂を聞きつけ、まづげまで足を運ぶ人が増えていった。「お客さんの半分が、施術が初めての方々。みなさんのお話を聞くのも楽しいですし、何より施術を終えた後、鏡に映るみなさんの笑顔を見ると、私まで嬉しくなるの嬉しいですね」と、デザイナーとして頑張ってきた赤星さん。赤星さんたちは、移住してきて良かったと思えます。技術を通して得る喜び。赤星さんのやってきたことが、少なからず、島の人の心に小さな幸せを生んでいる。

「Areey」では、今流行しているまづげの施術も行っているのですが、こうい類のものって、どうしても若い人がやるイメージだと思うんです。でも、私はおまけやリジとかお嬢ちゃんも、まづげやまづげを整えるだけで、気分も印象も変わるんだということを伝えていきたい。今は男性がメイクすることも、美容サロンの行くことも普通の時代。誰でも身だしなみを整えることは大切だし、美は女性だけのもの、若い人だけのものではない。そんなことを私はAreeyを通して、みなさんに伝えていきたいなと思っています」

ACCESS

PIGA UP

ピカアップ

まづげパーマやエクステで、マスカをつけてもより印象的な目に
マスカをつけることが当たり前にあった時代。目元がより整えられるように、そんな時に便利なまづげパーマやエクステ。最新のアイテムもはかどることはもちろん。もちろんお困りの時でも、マスカをつけるだけで目がぱっちり。女性にとってはお前掛アイテム間違いなし！

BEAUTY STUDIO Areey
江田島市江田島町切串2-2-1 Kirkushi Coastal Village内
営業時間：10:00〜19:00 / 不定休
Instagram・beauty_studio_areey
予約制。予約はInstagram DMから

江田島町切串にオープンしたばかりの複合施設「Kirkushi Coastal Village」の2階に9月5日、ビューティースタジオAreey（アレー）がオープンした。2021年に江田島市へ移住した赤星さんが長年蓄えてきた技術と接客を提供してくれた場所。今回はそんなAreeyのオーナーに、開業に至るまでのお話や、活動への思いを話してもらいました。

瀬戸内海の『多島美』に魅せられて

Areeyオーナーの赤星梨沙さんは、2021年に東京から夫婦で江田島市へ移住してきた。東京では六本木や恵比寿、池袋などでまづげサロンに勤務し、長年アイデザイナーとして従事してきたという。「江田島市に来た当初は旦那さん、広島県出身で、何度も広島に来るうちに、私が瀬戸内の島でいつか暮らしてみたいと思うようになったのが始まりなんです」

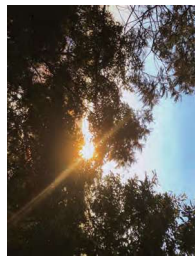
旦那さんと帰省も兼ねた旅行で毎年訪れていた広島。最初は広島市内を中心に有名な観光地を訪れていたが、次第に隣県や瀬戸内の島を巡るようになって、初めて尾道市に行った際に見た『多島美』に感動したのが移住したいと思ったきっかけだった。「コロナ禍ということもあって、時間にも余裕ができたので、最初は軽い気持ちで東京・有楽町にある、ひろしま暮らしサポートセンターに行ったんです。そしたら「お試し暮らし制度」というものがあることを知って。候補に挙がったのが尾道市と江田島市。そこで初めて江田島市の存在を知ったんですよ。そこからなんと撮影で話が進んでいく。気づいたら江田島市に移住していました。本当は、移住の話は「老後」という話だったんですけどね笑」

島に来てからは、まずは生活に慣れること、人と知り合うことに時間をかけたという赤星さん。段々と知合いも増え、島暮らしも楽しめるようになっていった時、ふと頭の中に浮かんできたのが「島でサロンを開きたい」という思いだった。



Meet >>> すみちゃん

沖美町三吉にあるお好み焼き・鉄板焼きの店「風(なぎ)」の店主、すみちゃん。すみちゃんの明るい人柄も相まって、会話が弾む弾む…。気づいたら3時間ぐらい経ってました(笑)。美味しいお好み焼きとすみちゃんと過ごす時間を楽しんで。



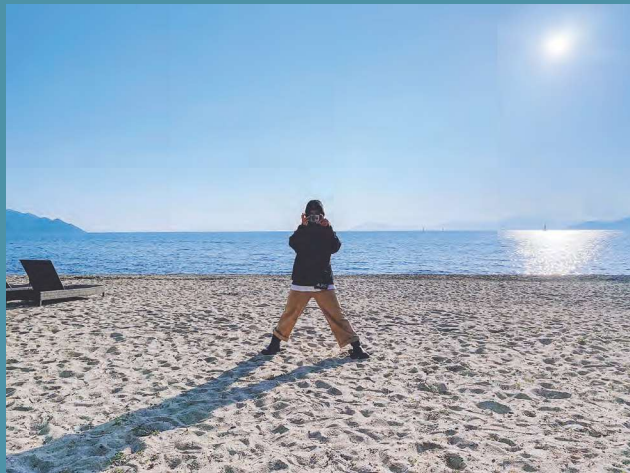
フウド

Meet >>> とみー

沖美町にあるコミュニティスペースフウドのスタッフとして働くとしみー。大阪で生まれ育った彼が、縁もゆかりもない島に来てどうなっていくか…これからが楽しみな若手移住ビトですね。



Meet ETAJIMA.



江田島と能美島、
その周辺に点在する島々で
構成された「江田島市」。
そんな島を気ままに歩くと、
いろんな人たちに会いました。

エ
タ
ジ
マ
で
会
っ
た
人
た
ち
。



どろんこ園

Meet >>> なおちゃん
& いっくん&きたちゃん

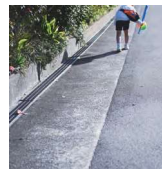
保育士のなおちゃん(右)が園長を務める「どろんこ園」。島の豊かな自然の中で、子どもたちがしたいことを応援し、成長を見守る場所が大桝町にあるんです。突然の写真撮影のお願いも「いいよ〜構って構って〜」と笑顔で応えてくれるなおちゃん。旦那さんのいっくんと息子のきたちゃんも一緒に、良い写真が撮れました。



おてんと工房

Meet >>> 和田 天斗(わだ・たかと)さん

ゆめタウンの近くに店を構える和田さん。2022年にオープンしたばかりの整体・マッサージ屋さんですが「常に忙しませてもらってます」という人気ぶり。疲れた体を癒しに行ってみてはいかがでしょうか。



エタデン(江田島電気設備)

Meet >>> まさくん&けんてい

島の電気工事のことなら「エタデン」！電気の不便や不安を解消してくれる電気工事屋さんのお二人。代表のまさくんも、従業員のけんていも笑顔が素敵なナイスガイです。住居から店舗、民泊施設まであらゆる電気のお悩みを相談・対応してくれます。この日も、撮影をお願いすると気さくに対応してくれた二人に感謝！電気のことで悩める人はぜひお問い合わせください。「エタデン」で検索、またはInstagram@etaden2018をチェック！



CHA&YOSHIE

Meet >>> チャアさんとヨシエさん

2022年4月から地域おこし協力隊国際交流支援員となったヨシエさんと、ザンビア人では英語・日本語教師、ミュージシャンまでこなすチャアさんご夫婦、いつも陽気で仲の良いお二人と喋っていると、こちらまで気分アップ♪最近ではお二人でイベントに出演したり、講演会を行ったりと島でも注目の人に。今後の活躍にも目が離せません。



大和れんこん

Meet >>> 城さん

飛渡瀬にある田んぼでれんこんを作っている城さん。れんこんを今年初収穫したばかりのフレッシュな農家さんです。主にれんこんは江田島市内の店舗や広島市内のJAに卸しているそう。田んぼに江田島の山の水を引いて作っているから、甘味があるのが特徴！最新情報についてはInstagram@yamatorenkunをチェックしてみてください。



Ogleee

Meet >>> 小栗 好博さん

島ではちょっとした有名人？陽気な小栗さんのキャラクターに魅せられたファンもいるとか、いないとか。シーズンには本業のスクューバダイビングインストラクターとして江田島の海で潜りまくってます。江田島市内ではOgleeeでしかライセンス取得講習は受けられませんよ。体験コースもぜひ。



頑張るとるんよね。

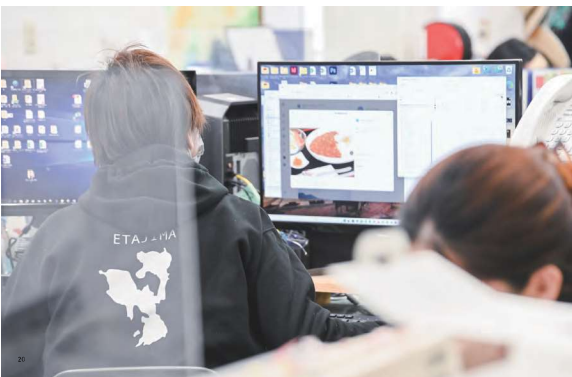
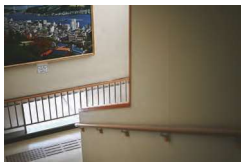
みんな島のどこかで



江田島市役所

Meet >>> 働くみなさん

「広報運動企画」として始まったゴーオン。毎月約40頁もある「広報えたま」を作っているのは、企画振興課広報担当の職員さんです。どんな内容の仕事でも「すぐできる」なんて仕事はこの世の中にはありません。その感覚を忘れないようにしたいなと、山積み書類を見てそう思った今日の頃でした。



Edwards Roastery Cafe

Meet >>> タカコさん

窯焼きピザが人気のエドワーズロースタリーカフェ。オーナーのブレンダンさんを支えているのが、奥様のタカコさん。カメラを向けると「私か〜い」と言いながらピースしてくれました(笑)。現在は日曜日のみの営業となっているので、ピザを食べたい人はお早めに。



ウィングス

Meet >>> マスターも奥さん(なおちゃん)

コーヒーとお酒の店「ウィングス」。マスターこだわりの内装に仕上がった店内は良い意味で江田島っぽくなく、1人でも何度も通いたくなる感じ！サイモン&ガーファングが大好きなマスターと素敵な奥様との会話が楽しい、ゆっくり寛げる新スポットにぶらっと寄ってみたいいかがですか？アメリカンな雰囲気や音楽好きは、絶対に寄るべし。

Cafe Lisboa

Meet >>> マスター

造船所の跡地にできた海の見えるカフェ Lisboa(リスボン)のマスター瀬戸垣内さん。海を見ながら、ゆっくりカフェタイムを楽しむのがおすすめです。マスターは元船大工ということもあり、店内は船をイメージした装飾で彩られています。優しい陽の光に包まれながら、美味しいオリジナルブレンドコーヒーや手づくりのシフォンケーキを食べて、至福のひと時をぜひ。



毎号リレー形式で江田島市内で活躍する人やお店を紹介！

人生の後半は、
夫婦で一緒に
『好きなこと』を。

能美町・中町

整体屋さん TORCH

ちづちゃんのグルテンフリーおやつ屋さん

Vol.19



ETAJIMA

GoON!
エタジマゴーオン

能美町中町に、それぞれ好きなことを職にして活動をしている夫婦がいることを知っていますか？気持ちの良い空間で施される「丁寧な整体が好評な夫、可愛いキッチンカーで体を気遣ったお妻」を販売する妻、二人で人生を楽しみながら活動する西森夫妻にお話を伺いました。

整えるお手伝いさん

「整体屋さん TORCH」

西森暢治（にしもり やうじ）さんは2022年1月、自宅の一角に「TORCH（トーチ）」をオープン、整体師として活動している。小さい頃からスポーツが大好きだったということもあり、大学の時には体育と健康について学ぶ「健康科学」を専攻し、スポーツクラブでトレーナーをしていたという経験もあるそう。このうち、トレーナーは選手が怪我した時に「治す」という職種ではないので、どこかを痛めた時にも対処できるよう、理学療法士と整体師に興味を持ち始めて。自分ができる範囲は整体師かな？と迷っていた頃から整体師になるための勉強を始めました。その後、学びたいと思える整体の流派にも出会い、勉強を重ねた暢治さんだったが、結婚のタイミングや今後の生活のこともあり、整体師の道に進まず、就職を選ぶことになった。「自分の経験を活かして病院に勤めたいのですが、根本は総務での事務職だったのですが、患者さんとしっかりと向き合う仕事ではありませんでした。だからずっと整体師になりたいという思いを持ってたまま病院で働いていましたね。整体師を持つという夢を持ちながらも、真面目に病院で働いていた暢治さんだったが、昨年1月にキッチンアエンジンをするタイミングが訪れた。「夢はあきらめていなかったのですが、定年後に整体師になると思ってはいたんですが、やっぱり一体力者としてやっていたのは年を取ってから整体師としてやっていたらいいのか？」と思つたんです。突然頭から浮かんできた疑問。側で見ていた妻の暢治さん共感、ついには背中を押しした。「もちろん決断するのは本人ですが、結構

コロナ禍前から自宅での英会話教室を開いていた暢治さんは、横で生きていると活動をするという思いを聞いていたのですが、兼ねてからの夢を叶えてこの一歩という話をしました。家族のために一生懸命働いてくれていたし、そうやって体力的に弱るかもしれないし、どうする時間をつくさんで見えたので。私は、暢治さんの長年の夢を叶えてほしいなと心から思いましたね（話・千鶴さん）。

「職場や仕事で嫌だったという決断は決まらなかった。充実した環境の中で逆にきっかけをもらい、ついに憧れの整体師として活動する決断をしたんです。暢治さんはTORCHで、体を「治す」のではなく「より生活しやすい」ことを目的として整体を行っていた。「お客さんは基本的に口をきかない。20代から30代の方まで、体のあらゆる悩みを持った幅広い年代の方に来てくれます。『屋号は名前通り「松明（たけまつ）」から。体を整えるお手伝いを通して、皆さんの足を元気にさせるような、そんな存在になりたいですね』

大きく言えば、島の人たちのサポートがしたい、お世話になった人へ恩返しをしたいという気持ちで活動する暢治くんが姿が見えて、私まで嬉しくなるんです」と言うように、暢治さんこそで晴れやかな表情で、嬉しそうにTORCHへの思いを話してくれたのが、とても印象的だった。

「おちちゃん、幸せな卵、がきつかけ」「ちづちゃんのグルテンフリーおやつ屋さん」



（左）整体は2階への吹き抜けが気持ちの良い開放的な空間で施術を受けることができます
（右）千鶴さんのメニューが並ぶキッチンカー。お洒落で体に優しいお菓子をぜひ

言う「ハッピーエッジ」とはケージに入っていないニワトリが産んだ卵のこと。千鶴さんはその質に驚くと同時に、ものすごく興味を湧いたという。「もちろん、そんな卵は知らなかったし、ここには無い！」と私が答えたが、おばあちゃんが「Oh yes」と言って顔色が暗くなつた（笑）。その反応が不思議で、ハッピーエッジのことも気になった。その後、さまざまな角度から食について勉強し、知識を深めていた千鶴さん。中でも、一食に対しての思いが強いヨーロッパの食文化を中心に、見習った料理選びもそこどわるように、自分の食卓に良くなった。アレルギー体質だったのが改善されたんです。私だけじゃない、家族と一緒に実感したことで、そこから食事に對しての気持ちが変わりました。もう一回の食事、これを「おいしいと思うように」ってやる形にしたいなと思うようになった。気づいたのが実現してしまっただけ（笑）。「家族だけでなく、知り合いや周りの友達にも好評だった千鶴さんの手料理やスイーツ。お褒めして出たのにも後押しされ、千鶴さんはキッチンカーに食への思いを乗せて走っていくことになった。



整体屋さん TORCH
予約必須。ご予約、お問い合わせはLINEから▶▶▶
ちづちゃんのグルテンフリーおやつ屋さん
ご予約、お問い合わせはインスタグラムDMから。メニューや店舗情報なども▶▶▶ @glutenfreebakedschiz



定番のマフィンからグラノーラまで体に心にも優しいスイーツ
「お菓子の作り手さんは水筒を常備して、アレルギー体質の方や、ダイエット中の方にも安心していただけるようメニュー（ほか）も1品1品、お洒落なお店の雰囲気に合わせたメニューも注文可能。ちょっとした手土産やお供え物にもぜひ。」「（多岐によってメニューが変わります。詳細はお問い合わせください）

ETAJIMA

GoON!

エタジマゴーオン

次の世代へ『感謝』を
伝え続けられる場所に。

Vol.20



能美町・中野
バスケットボールクラブ CISE



で教える、そんな場所なんです。バスケットができることも、普段の生活でも当たり前のことではない。よく考えたら、周りには感謝すべきことがたくさんあるんだということを、クラブの活動を通して子どもたちに伝えていく。「話を聞いた時、バスケットのコーチというよりも、子どもへの育成につながる活動ができることに感動したんです。僕自身、コーチになってからバスケットを子どもたちと一緒に勉強してきました。だから、コーチという立場ではありませんが子どもたちにも、いつも感謝しているんですよ。バスケットを勉強させてくれて、コーチと一緒にバスケットをさせてくれる保護者の人がいて、送迎してくれる保護者の人がいて、地域の人協力してくれるから体育館という練習場所がある。お父さん・お母さんが一生懸命動いてくれるから、シューズを履ける。こうしたら小さなことにも感謝して、『自分ができることを考えて動く』ということを、クラブの活動を通して伝えてくれる。CISEのバスケットはもうなんです。が、たくさんの人と関わることで、周りにたくさんある感謝すべきことを知ってほしい、という思いを持って僕たちは活動しています」

島の子どもたちが輝く大切な場所・CISE

「タジマ」Children/Important place/Space/Etaimaの頭文字を取った。「島の子どもたちが輝く大切な場所」という意味だ。現在、中学生の部は「一人が在学中、高校生が大人が対戦相手となって練習をしてい

る。『実力がどれくらいないのか体感させてあげたいのですが、中学生同士で対戦するのは、人数のこともあって島では難しいです。それでも、全国的にクラブチームでも中体連に出るようなシステムに移行し始めていくという話を耳にして、やることをみんなで頑張つてやっています。もし中体連に出れるようになったら、部活動との併用は厳しいので、子どもたちには厳しい選択をしてもらうことがありますが、僕は一生懸命練習を頑張ってきた子どもたちを、どこに試合に出してあげたいと思っただけなんです」

中学生同士で対戦できない等、難しい環境であっても自分が見てきた子どもたちがCISEのコーチとして戻ってきたとき、次の世代へバスケットを伝えてくれるという話を大野さん。「練習を頑張つて上手くなるのはもちろん、子どもたちにはCISEでの経験を通してたくさん学べることを学んでほしいです。この活動を通して気づいた『感謝』の気持ちも、今度は教える子どもたちが次の世代に伝えてくれるから……こんなに嬉しいことはないです。より僕他にもコーチやアシスタントとして毎回指導に来てくれる方もいます。みんな仕事で忙しいので、子どもたちと一緒に頑張っているの、少しでも多くの人にCISEの存在を知ってもらえればと思います」

後日、大野さんからクラブチームでも中体連に出ることになったという嬉しい知らせが入った。「動くのが思ったより早かったですね（笑）」なんて大野さんは笑っていたが、インタビューを通して知った活動への思いやCISEのことを考えると、心底喜んでくれるだろうと、私までとても嬉しかった。

能美町にある施設を中心に活動する、小中学生のバスケットボールクラブ・CISEの「シーズン」週末の夜、子どもたちと一緒に走り、声を出し、汗を流しているのがクラブの代表を務める大野潤さんだ。仕事と両立しながらコーチを務める大野さんが子どもたちに伝えたいこと、期待するCISEの未来とは。

『考動』の大切さをみんなと一緒に学んで

江田島市を拠点に活動するバスケットボールクラブ・CISEの「シーズン」平日は接客業を仕事に、週末は「CISE」中学生の部代表として、子どもたちにバスケットボールの指導を行っているのが、今回インタビューをさせてもらった大野潤さんだ。CISEは大きく分けて小学生と中学生の2団体があり、在団する子どもたちの多くは、それぞれ通う学校でテニス部や陸上部など、違う部活に所属しながらバスケットを学んでいる。

「練習は能美中学校で毎週末の17時から20時まで、ミニバスから続けている子どももいるし、途中から参加している子どももいます。彼らは、次の日朝早くから学校もあるのに、いつも頑張つて練習しています。」「優しい眼差しで話をしてくれる大野さんは、実は昔からバスケットをやっていたわけではなく、本格的に始めたのはCISEのコーチになってからという。『CISEに自分の子どもが入団したので毎日練習を見に行っていたら、当時の代表の方にコーチをやってみませんか？』というお声をかけられたんです。そこから、性根を入れて勉強し始めたのは、20歳くらいから。見よう見まねでバスケットはしてましたが、細いルールも知らないし、ポジションの名前とか、基本的なことも分かりませんでした（笑）。そんな大野さんがなぜコーチになったのか。それは、当時の代表から教えられるクラブの方針に共感したからだ。という。『CISEはバスケットだけを教えるクラブではなく『感謝』を教えるというクラブ。横断幕にも書かれているのですが、『考動（こうどう）』を大人も子どもも一緒に学んでみんな

CISE バスケットボールスポーツ少年団

＜中学生の部＞
毎週末、能美中学校体育館にて練習しています
■日曜日 17時～20時/男子バスケット
■日曜日 17時～20時/女子バスケット
CISEに関する質問・お問い合わせはこちら ☎080-5555-2382（担当：恵本）

＜小学生の部＞
江田島市スポーツセンターにて活動中
■第一、第三火曜日・金曜日・土曜日/男子バスケット
■第二、第四火曜日・金曜日・第一、第三土曜日/女子バスケット
お問い合わせはこちら
▶cisesportsboyscouts@outlook.com / 男子バスケット
▶tamciscidunk@yahoo.co.jp / 女子バスケット

ぜひお気軽にお問い合わせください！





「他人事は自分事」を考える
各施設の活動内容は、自分たちと何らかの関わりがない生活を送ることができるよう手伝いをしているという、皆さんは口をそろえて言う。例えばグループホーム「サンライズ大君」は、基本的に日中活動がある障がい者大君が共同生活をしている場所。グループホームを管理する三木さんは「仕事がある日は仕事に

ながら、その10年間を、子どもたちの成長のために捧げてきたという事実は、とても誇らしく、かついいことだと、私は思った。
立ち上がり初期からスタッフとして働く沼田さんは「私たち子どもたちと、一緒に成長させてもらっているんですよね。子どもたちの成長の過程の一部になれることが嬉しいし、反応や言葉、卒業した子どもたちの自立した姿を見るたびに、嬉しくてよかったと思います」と話し、皆さんが笑顔でうなづいたのがとても印象的だった。続けて綾華さんは言う「最初に育ててくれた子どもたちはもう成人し、飲みに行きましょうなんて言うようになったから、そういう時、本当に時間が早く過ぎたな」と感じると同時に、嬉しさがこみ上げてくるという。この前も、障がい者雇用枠で企業に勤める子が立て続けに遊びに来たことで「今、自分はこの状況なんだよ」とって教えてくれて、給料も何万円とるんだって聞いたら、変なものを買っていいだけだ(笑)って自分たちとなら変わらないうちの生活を送れているというのを知れて本当に嬉しかった。でも、10年前は立ち上げたばかりで、業人同然の部分もあったし、とにかく必死だった。今思えば、もっと子どもたちでできたこともあったと振り返り、子どもたちには申し訳ないと感じることもありました。だからこそ、今いる子どもたちには、当時できなかったことをしてあげたいという気持ちが大いにあるね」

自分には関係ないという人も多くいるだろう。しかし、太陽が運営する各施設は、ただの障がい者支援施設ではなく、障がいを受け入れ「個性」として人々が楽しめようとする場所。人とかをすることを楽しんでいるような場所であるのではないかと思う。皆さんの仕事は、純粋で個性的な人たちに一緒に学び成長し、普段から人の心の温かさに触れる事ができる、そんな素敵な仕事だとも思っています。インタビューを通して、私自身、障がいへの向き合い方を改めて考えさせられたのは言うまでもない。



おひさま2号館
広島県江田島市大崎町大原1095-2
TEL: 0823-27-7022 FAX: 0823-27-7023
(9時～17時 月曜～金曜営業)

その他各施設についてはホームページをご確認ください



PICK UP

安福は「サンライズ大君」



夏にオープン! グループホーム「サンライズ特活」入居者・スタッフ募集中

現在、朝太陽では夏にオープン予定の日中支援型グループホーム「サンライズ特活」の入居者・スタッフを募集し、おひさまの活動を経て、日中の就労先や生活先が広い方でも入居できるグループホームの必要性を感じ、この夏オープンすることになりました。この施設と一緒に働きたい方はスタッフまでお問い合わせください。
お問い合わせ先 0820-64517662

ETAJIMA

GoON!

エタジマゴーオン



Vol.22

大崎町
株式会社太陽

障がいを持つたり、発達に特性のある子どもが利用できる放課後デイサービス「おひさま」や、障がいを持つ人の生活を支援するグループホーム「サンライズ大君」などを運営する株式会社太陽。今回は、とても明るく話をしてくれる太陽で働く皆さんの、さまざまな思いについてのお話。

10年間で感じた変化と続けてきた理由
大崎町大原にある「おひさま2号館」。色とりどりの絵が描かれた施設は、雰囲気がとても明るい。「こは、ハンディキャップがある子どもたちが通う放課後児童クラブのようなもので、成長段階で気になることがある子どもたちや、その中で不登校気味な子どもたちも通っています」とわかりやすく説明してくれるのは、宮下由佳代表と綾華さんだ。「おひさまが家庭や学校とは違った第三居場所となつて、子どもたちが自分らしく成長できる場所となるように支援をしています。まずは気軽に相談できる場所として、月3回おひさまカフェも開いているので、ぜひご利用ください」。

活動は、昨年10周年を迎えた。元々、広島市の障がい者支援施設に勤めていた由佳さんと息子さんの障がい者、同類の施設が島にもあればいいなと思ったのが始まりだった。当時はまだ、障がいという言葉に対して閉鎖的な空気は少なからずあったと思います。ですが、この10年で障がいを持つ子どもたちを取り巻く環境や、障がいそのものの見方がずいぶん良い方向に変わった気がしますね「話を聞かしながら、由佳さんの言う10年に「勝手に」話を感じた。言葉にすれば10年はあまーという間かもしれないが、施設を運営するうえで、さまざまな問題に直面し、悩むこともあったのではないかと。活動を簡単に受け入れられ、理解してくれる人たちももちろんいたとは思いますが、理解が難しい人もいただろう。それでも、由佳さんをはじめとする太陽で働くスタッフの皆さんは、人と障がいと向き合い、言ってみれば他人のために、生命を動いてきたのだ。

10年と言えば、小学校に入學した子どもが高校生になる。――その10年を皆さん「あつた」という間だから、この10年で社会の在り方も大きく変わった。話を聞き

毎号 **リレー形式** で江田島市内で活躍する人やお店を紹介！

interview 瀬戸内いとなみ舎 代表 **峰尾 亮平**さん

ETAJIMA GoON! エタジマゴーオン

オリーブ丸ごと体験を
楽しんでほしい。



Vol.23

能美町中町
瀬戸内いとなみ舎

江田島市で初のアグリツーリズム体験施設を作ろうと奮闘している、瀬戸内いとなみ舎代表の峰尾亮平さん。地場おもしろ体験として着任してから7年、「動く」タミミングを迎えた峰尾さんが挑戦する、今後のオリーブ事業とは。

いとなみ舎の挑戦「アグリツーリズム」

2月下旬、能美町にある旧給食センターで瀬戸内いとなみ舎の代表として活動する峰尾さんは、「アグリツーリズム」のモニターツアーを実施した。今後定期的にツアーを行うため、現在進行形で施設を改装中だ。「これまで、この場所はオリーブの食品製造工場として使われていた。ずっと開いているカフェとか飲食店ではないのですが、今後は飲食営業許可を取って、ツアー参加者に農業体験してもらった後、オリーブを使った食事を提供したり、みんなで一緒に体験活動ができるような場所に改装しています」

アグリツーリズムとは、ヨーロッパ発祥の休暇の過ごし方のひとつ。都市部に住む人たちが、地方の農場などに滞在して、農業体験や文化を楽しむ観光リズムだ。「昔、私が実際にイタリアに行ってアグリツーリズムを体験した時、とても楽しかったのですが、ずっと印象に残っていましたが、いつか自分でも…とは思っていたのですが、今回有難いことに旅行会社さんからオリーブを絡めたツアーの提案を頂いたので、印象に残っていたこの体験を、実際にやってみよう、挑戦してみようと思ったんです。この場所を、ツアーを通してオリーブを認知と体験できる施設にしようと思っています」オリーブの収穫体験をした人たちが一緒にランチを食べ、オリーブオイルをデイスティングし、オリーブそのものについて学ぶ。江田島市内では他にない、新しいスポットになる予定です。

オリーブ栽培を認知から雇用、産業へ

峰尾さんは7年前、地域おこし協力隊、オリーブ栽培技術指導員として着任、神奈川県から移住してきた。卒業後、オリーブ栽培事業を主とした「瀬戸内いとなみ舎」を開業、栽培や実を原料とした商品の開発のほか、協力

隊から引き続き巡回指導や現地の技術指導を行っている。「7年経って一番変わったと思うのが、オリーブに対しての認知度。江田島市と言えど、杜撰とか南科学学校とか同じように「オリーブ」と口にしてくれる方が増えたと思います。今は、オリーブ栽培が雇用になって産業になっていく基盤を作る段階に差し掛かっているのではないかと思います。頑張ってきたオリーブを育てれば、品質会で賞を貰えるまでになったんです。あとは、僕も含めオリーブ農家さん達がいかにか頑張ってきたのか」

オリーブは木に実が成る。野菜などと同じ、栽培面積を増やしても収穫量が増えなくていい時間はかかる。それならば、まずはオリーブそのものに興味をもってもらい、体験や観光分野で交流を広げていくことを峰尾さんは考えたという。「商品開発ももちろん基本ですが、もっと幅広く捉えて、木とか枝とか余すことなくオリーブの魅力を伝えていくことを、この施設がモデルとなっていてほしいんです」

オリーブから江田島市のファンへつながりを生み出す場所

先日程われたいとなみ舎のモニターツアーでは、参加者に10時から15時までオリーブ尽くしの一日を体験してもらった。「単純にオリーブ農家体験が楽しい」オリーブにこんな魅力があるのを知らなかった「などの声をもらった、嬉しそうに峰尾さんは話す。「自分の強みと考えた時に、単に食事を出すだけでなく、オリーブの栽培方法やオリーブオイルの魅力、江田島市の取組などを、参加者さんとおしゃべりしながら伝えていくことも、自分が提供出来る体験なんだと気づいたんです。この場所を、オリーブをきっかけに集まった人の『話せる場』にしていきたい

です。ね。オリーブのことだけでなく、今の江田島市のこれについても、他のお店やおすしすめこの話も。このツアー体験を経て、江田島に興味を持ってもらって、1年に1回は足を運んでくれたり、オリーブの収穫を手伝ってくれた、他のお店を回ったりしてほしい。なんでも言うのか、そういう江田島市の特産品であるオリーブのファンを作りたい。もしかし、その人たちが今後一緒に働いてくれる仲間になるかもしれない。そういう人が増えていくと楽しいですね。そこを、ここを、オリーブと江田島と人をつなぐ、つながりがどんなに生まれる場所になっていくんです」

取材後、オリーブの仕分作業の手伝いをしていた仲間が「峰尾さんは7年経って、神奈川のシティボーイから、オリーブのファンのお兄さんになった！」と笑っていた。「そんなにシティボーイではないんだけど、来たばかりの頃は、今こんなことをしてるなんて想像してなかったからね笑」と峰尾さんも笑う。「多分これがタミミング、島でも新しい交流を生むスポットがどんどんできていくし、『オリーブで観光』というのも自分にとって、新しい挑戦なんです。アグリツーリズムは日本ではまだまだ珍しい取組かもしれないけど、これが上手にできれば農家さんとも同じようにできるかもしれない。協力隊の時から、僕はオリーブを通した役割みたいなのをもっている立場で、ずっと、やらせてももらっている感覚なので、これからもその時々で自分ができることでチャレンジしていきたいです」



瀬戸内いとなみ舎
広島県江田島市能美町中町
ホームページ ▶ <https://itonamisha.thebase.in/>
Instagram ▶ [@itonamisha](https://www.instagram.com/itonamisha)
オリーブオイルのほか、商品やイベントの情報も



一部はDIY！体験の場を改装中



古い旧給食センターを現在改装中。一部は、峰尾さんや仲間ら DIY で作業しています。また、完成後は時間限定で一食提供することもある予定です。新しい交流の場になるのか、完成が今から楽しみです！

小川港の近くにある手づくりこだわった小さなパン屋さん。とても美味しい良い店主が迎えてくれる。朝しゅやすいぱん屋さんです。人気商品は、お客さんの要望に全力で応えている食パン各種。全粒粉の食パンから、耳もすんなり食べれる柔らかい白食パンなどラインナップも豊富です。その他惣菜パンや菓子パンも充実しているのです。

白食パン440円／あんバターフランス190円
アーモンドクロワッサン120円

モミノキ
● 江田島市江田島町小用3丁目11-12
○ 8:00～17:00
◎ 水曜日



もみの木

三高港から車ですぐ。明るく気さくな店主が誘ってくれるお好み焼きが人気の「皿」。おすめメニューは定番の肉玉そば(800円)。夜は1品メニューもあるので、お酒を飲みながら楽しめるお好み焼き屋さんです。ピザピザで綺麗な店内は女性のお客さんでも入りやすくして嬉しい。貸切り利用もできます。

肉玉そば(ねぎ・シーフード入り)1100円

ナギ
● 江田島市津美町三3355-1
○ 11:00～13:30/17:30～21:00
◎ 水曜日



江田島オリーブファクトリー



江田島産オリーブを存分に味わえるメニューで人気のオリーブファクトリー。オリーブオイルが放熱でオイル各種を味比べできるのも嬉しい。江田島を中心とした地元食材をふんだんに使ったピッツァやパスタなど、オリーブオイルと個性抜群の料理を、景色と共に楽しんで。

江田島産チキンと蓮根のトマトパスタ(蓮根の量が季節によって変更します)1430円

エタジマ オリーブ ファクトリー
● 江田島市大崎町大倉862-3
○ 平日11:00～16:00/土日祝11:00～18:00
L.O.平日15:00/土日祝17:00
◎ 月曜日、祝日営業の都合当日休業



オーナーのブレndan・エドワーズさん手づくりのサードワ石窯ピザが大人気のエドワーズ・ロースタリーカフェ。マルゲリータピザのほか、「本日のスペシャル」として出される限定ピザもおすすめ。現在は週末の日曜日のみオープンしているの、ドライブがてら寄るのも食べ応えのあるサードワピザをぜひ。

スパニッシュキンピザ1500円

エドワーズ ロースタリー カフェ
● 江田島市大崎町深江4267
◎ 日曜のみ11:30～15:00



2022年7月にオープン、目の前が海という最高のロケーションとデザートや季節のエンドまで充実したカフェメニューで人気のお店に、マスターのおすすめはキーマカレー(800円)とシフォンケーキ(400円)。また、リスポンのコーヒーズは完全オリジナルブレンドで、その美味しさから豆やリッパックを買って帰る方も多しなんだとか。気になるメニューがたぐくみあるので、楽しいカフェタイムを過ごしにぜひ行ってみて。

シフォンケーキ400円
季節のエンド(ホット)450円

カフェ リスポン
● 江田島市江田島町中央4-20-1
○ 10:00～16:30
◎ 水曜日、奇数週火曜日



ウィングス



2022年8月にオープンしたばかりのカフェ・ウィングスは、お酒とコーヒーのお店。マスターが趣味で集めたレコードやCD、レトロなおもちゃやギターが店内に飾ってあり、アメリカン雰囲気や音楽が好きなお客さんにはたまらない空間です。夜の営業ではメニューも夜用に変わるので、おつまみを食べてからゆっくりお酒を楽しんで。

母と子の軽サンド600円
クリームソーダ500円

ウィングス
● 江田島市大崎町飛渡瀬311
○ 平日11:00～21:00/土日祝9:00～21:00
◎ 水曜日(祝日)の場合は営業!



Edwards Roastery Cafe

よりみち
ぐるめ

ゴーオンの

行ってみんなさい
食べんさい

GoON! MAP

江田島市へ行こう。

SHOP LIST

- ① LICHOU
- ② よってみんな 江田島
- ③ 食処しんべい
- ④ Leciell
- ⑤ かぞく家
- ⑥ AREey
- ⑦ 整体屋さんTORCH^{※1}
- ⑧ バスケットボールクラブCISE^{※2}
- ⑨ チームおいで江田島^{※3}
- ⑩ 株式会社太陽^{※4}
- ⑪ 瀬戸内いとなみ舎

- ⑫ 風
- ⑬ おでんと工房
- ⑭ どんこ園
- ⑮ Edwards Roastery Cafe
- ⑯ ウィングス
- ⑰ Café Lisboa
- ⑱ もみの木
- ⑲ 江田島オーブファクトリー
- ⑳ 江田島市役所

※1 ちづちゃんのごめんちゃん菓子屋さんの詳細はInstagramで
 ※2 江田島の活動場所は2か所あります。P23もご確認ください
 ※3 江田島の活動場所は2か所あります。P23もご確認ください
 ※4 おひさま1号館・2号館の撮影についてはホームページまたはP27もご確認ください

広島港



切串港 切串港(吹越)

三高港

高田港

中町港

小用港

呉市

倉橋島

2年間毎月取材してみて

あとかぎ。



分岐点まで
正解は誰か
「あとかぎ」

コロナ禍ではじまった ETAJIMA GoON

2020年4月に協力隊として江田島市に來ましたが、まさかの新型コロナウイルス大流行により予定もできない、知り合いもない、外出できない、島のことなんにも知らない状態での活動。人との交流が感じずきた2020年を経て思っていたのがこの企画でした。

そもそも江田島市は瀬戸内で4番目に大きい島。人づてに聞く「あの面白く」とか「こんな人おるの知ってる?」とか、私だけじゃなく、みんな知らないんじゃないかと。そこで、島の最強宣伝ツール「広報誌」と連携して、島で暮らす人が言う面白い人、素敵な人を紹介しようじゃないか!そう思ったんです。当初は私も知らない人だらけ、この企画を通して繋がりを築けたらなあとも思っていたので(笑)、ゴーオンを通して出会った皆さんの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。(中々会えない人もいるので…みなさまお元気ですか?)

江田島市、能美町、沖美町、大津町。それぞれの魅力溢れる町で出会った人たち。2年という期間だけじゃ、まだまだ紹介しきれない、出会えない人たちがたくさんいるので、どこかでまたゴーオンができればいいなと思っています。

「ゴーオンの…」 その言葉だけで話が通じる感じが嬉しかった

企画がスタートした当初は、意外と大変。リレー形式なので、次から次へ紹介してもらうのですが…「出たくない」「あまり喋りたくない」なんて断られることも多く、もちろん、個人の意見なので尊重もしますが、強制的に出演してもらった企画では決して無いので、取材リミットぎりぎり掲載OKの返事ももらうなんてこともありました。それでも毎月取材を続けていて、ありがたいことに市民のみなさまから声を掛けていただけたことも。「広報のゴーオンをやっている人だよ」と取材を受けくれた方が紹介してくれたら、初めてお会いする方に「エタジマゴーオンの…」と言うのと、いつも見ると返事が返ってきたり、中には、自ら出たいと言ってくださる方もいらっしゃいました。その反応や言葉が嬉しくて、続けられていた部分もありますね。

今回、この冊子を作るにあたって、色々な場所で撮影をさせてもらったんですが、改めてこの島は大きなと感じました。こちらに来る前は車の納品が間に合わないと言われた「じゃあ自転車でも生活さす」と返事をしたのですが、今度は市役所の方に「車がなくてもいいですよ」と言われて慌てて車を用意したんです(笑)。おかげで協力隊の活動も、プライベートもスムーズに移動できました(笑)。

私が取材・撮影・編集をしていた「ETAJIMA GoON」は一旦終わりとしましたが、私もつなげていただいたご縁を大切に、これからも頑張っていきたいと思っていますので、形が変わったとしても引き続きゴーオンのことをよくお願いします!



ゴーオンをつくった人
地域おこし協力隊
プロモーション推進員
牛尾 奈緒子



じゃあうさぎさん



取材の時に、私もスタッフもあんなに楽しかった。江田島に来てから初めて、楽しかった思い出がまた、しんがった。一瞬、おもしろい思い出。



海遊びもたくさんしました。